

## 令和6年度第2回下野市生涯学習推進協議会 議事録

審議会等名 令和6年度第2回下野市生涯学習推進協議会  
日 時 令和7年3月25日（火）午前10時から午前11時45分まで  
会 場 下野市役所2階 203会議室  
出席者 鈴木健一会長、楡木久美子副会長、高橋修一委員、小島恒夫委員、北村優子委員、鈴木秀男委員、松本文男委員、武子保委員  
【欠席】梅山博行委員、大古理恵子委員  
市側出席者 坂村哲也市長（生涯学習推進本部長）、高山正勝教育次長  
事務局 生涯学習文化課 野口修一課長、猪瀬貴之課長補佐、大塚隆邦主査、山中裕貴主査  
公開・非公開の別 (  公開  一部公開  非公開 )  
傍聴人 なし  
報道機関 なし  
議事録（概要）作成年月日 令和7年3月27日

### 協議事項等

1. 開会 児童館運営審議会代表の大垣委員の後任として、大古委員が後任となる旨報告。
2. 市長あいさつ  
(坂村市長) 委員の皆様におかれては、日頃より本市の生涯学習の推進に関し、様々な場面で協力いただき、感謝申し上げます。市民の皆さん全員にとって、一生学びの場を提供し、安心して暮らせるようにしていきたい気持ちでいる。下野市生涯学習推進計画（第三次）は令和7年度末で計画期間が満了するが、市民一人ひとりの学びの実現のためにも、次期計画に関する様々な意見をいただき、有意義な時間となることを祈念する。
3. 会長あいさつ  
(鈴木(健)会長) 第三次計画については、令和3年度から始まり、来年度はまとめの年度となる。5年間でいかなる成果や課題が見い出されたかを総括する時期にきている。総括を踏まえ、市民に納得いただける計画の考え方を答申してまいりたい。第三次計画策定や計画期間中は、対面の会議が中々できず、新型コロナの年であった。今でも影響が続いており、社会のあり方、会議や働き方が大きく変わってきている。生涯学習がいかなる方向に向かっていくのか、国県の動向を踏まえつつ、市独自の計画となるよう協議してまいりたい。
4. 下野市生涯学習推進計画（第四次）策定のための基本的な考え方についての諮問  
(野口課長) 続いて、坂村市長から鈴木会長へ諮問書を交付いただく。  
(坂村市長) 下野市生涯学習推進協議会設置要綱第2条第1項第1号の規定に基づき、下記のとおり諮問する。1 諮問事項、下野市生涯学習推進計画（第四次）策定のための基本的な考え方について。2 諮問理由、本市では、これまで、「共に学び・つながり・協働でつくる 豊かなしもつけ」を基本理念とする下野市生涯学習推進計画（第三次）（以下「現行計画」という。）に基づき、総合的かつ計画的に各種施策を展開し、第二次下野市総合計画及び第二次下野市教育大綱の基本施策である「生涯学習の推進」を図ってまい

った。この度、現行計画の計画期間が、令和7年度をもって満了することから、令和8年度から令和12年度までの5年間を計画期間とする下野市生涯学習推進計画（第四次）（以下「次期計画」という。）を策定することとした。今般、人口減少・少子化の深刻化をはじめ、人生100年時代の到来、地域コミュニティの衰退による人と人とのつながりの希薄化、デジタルトランスフォーメーション（DX）やグローバル化の進展など、生涯学習を取り巻く社会情勢が大きく変化している。次期計画の策定にあたっては、現行計画の理念にある「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を育むことを基本的な柱としつつ、社会情勢や国・県の施策の動向、本市の現状・課題を的確に踏まえながら、共に学び支え合う市民一人ひとりのウェルビーイングの実現に向けて、本市における生涯学習の推進に必要な施策の方向性等を明確にする必要がある。そこで、次期計画の策定にあたり、その基本的な考え方について、貴協議会のご意見を伺う。

＜坂村市長が諮問書を読み上げ、鈴木会長へ諮問書を手交＞

（鈴木会長）期待に沿えるよう、各委員の意見を取り入れ、より良い計画としていきたい。

（坂村市長）市制20周年という節目の年度でもある。ぜひよろしくお願ひしたい。

（野口課長）ここで、坂村市長は別公務のため退席する。

＜坂村市長退出＞

（野口課長）これより議事の進行は鈴木会長に願ひする。

## 5. 議事

### （1）令和7年度下野市生涯学習実施計画について

（鈴木（健）会長）先ほど坂村市長から次期計画に関する諮問書をいただいたが、各団体からの意見をいただきたい。本協議会でこれから答申内容を協議し、答申は文書を作成する重要なものとなる。議事に入る前に、事前に配付した次第にある議事の順番を入れ替え、先に、令和7年度下野市生涯学習実施計画について、事務局から報告をうけたいがよろしいか。

＜委員一同異議なし＞

（鈴木（健）会長）それでは、事務局より説明を求める。

（事務局）資料に基づき説明。

（鈴木（健）会長）令和7年度実施計画の内容、本協議会からの提言内容が実施計画にどの程度実現されているか等、事務局より説明いただいた。公民館や図書館を含む市内各課事業が対象で範囲が広い。令和7年度の事業数は296事業で前年度より増加している。ここで、本協議会の役割について資料1-2の24頁を使い再度説明する。本協議会は、第三次計画の進捗管理について、年度ごとに評価し、改善提案をするチェック機関の要素が大きい。会議の回数は少ないが、重要な役割を担っている。毎年評価することは作業としては大変であるが、新たな事象を踏まえることができる。本協議会では、各団体から推薦された委員や公募委員から意見をいただき、市民の学習ニーズを吸い上げている。次期計画に関する諮問に関しては、本部会で計画を策定するが、本協議会は、計画の基本的な柱を設定することが役割としてある。一方、毎年度の実施計画に関しては、事務局からの報告に対し、提言や提案を行い、推進計画の進捗を確認している。令和7年度については、その2つの協議事項が重なることとなる。それでは、委員か

ら次期計画につながることで構わないので質問等あるか。では、鈴木委員より事前意見いただいているのでお願いしたい。

(鈴木(秀)委員) 私は図書館協議会に所属している。図書館に多くの人に活用してもらうことが大切だと思うが、図書館利用者は一部の人に限定されていると感じる。例えば、交通の便により図書館に行けない方などがいる。本を通したひととひととの出会いが生まれることを望む。また、若年層はライトノベルや受賞作などの本は読むが、じっくり読むことはできていないように感じる。また、市立3図書館にはそれぞれ特色があるが、広がりになっていないと感じる。

(鈴木(健)会長) 図書館協議会においては、どのような議論がされているか。

(鈴木(秀)委員) 3館で連携してほしいと私は思う。連携していると事務局から報告を受けるが不十分と感じる。結論は出ていない。

(鈴木(健)会長) ぜひ図書館協議会で、一定の方向性を見いだしていただければありがたい。では、事務局から回答をお願いします。

(事務局) 事前質問に対する回答については、本日追加で資料を配付させていただいた。公民館と図書館の連携や、各館同士の連携については、既に取り組んでいるものがあるので、例示させていただいた。また、令和7年度より、図書館に出向かずに本を借りることのできる電子図書館の導入を進めていく予定である。令和7年7月を目途に、市内市立学校の協力のもと、児童書を中心に導入していきたい。その後は、予算の関係もあり、一度に大量の電子書籍を導入することは難しいが、雑誌関係の導入を検討している。紙で本を読むことは大切であるが、交通弱者対策の観点からも導入を検討している。

(鈴木(健)会長) ふるさと学習について、鈴木委員よりお願いしたい。

(鈴木(秀)委員) 市立学校で行われているかんぴょう・ふくべに関する体験学習について、歴史などの観点の学習が不足している様に感じる。

(鈴木(健)会長) 学校現場ではどのように学習しているか。

(高橋委員) 主に小学3年生の社会科の授業で、ふくべ絵付け体験学習などを実施している。場合によっては作業工程を見学したりしている。

(武子委員) かんぴょうに関する学習については、NHKでも取り上げられており、そこまで問題視することではないように思う。

(鈴木(健)会長) 事務局より補足があればお願いします。

(事務局) かんぴょう・ふくべに関する体験学習では、文化財課職員が講師となり、歴史を解説していることもある。

(鈴木(秀)委員) かんぴょう農家は後継ぎがなく、減少している。特産品としているが名ばかりとなりかねない。

(鈴木(健)会長) ふるさと学習の目標としては、後継者の育成というよりは、歴史などを学習することである。産業となると厳しい状況にあるということである。第四次計画にふるさと学習を位置付けるか、今後協議していきたい。公民館運営審議会では、どのような方向性で議論されているか。

(北村委員) 子ども向けや若者向けの企画が少ない、また、知られていないとの話題があった。一方、公民館では託児サービスを行うなどして、若い世代に届くような工夫をしている。

- (鈴木(健)会長) 次年度の提言内容にも盛り込まれている。講座の開催日時も工夫が必要であるが、土日開催としても若者が集まらないとも聞く。
- (事務局) 「小学校ってどんどこ？」という公民館講座を全小学校で実施している。各校を会場に家庭教育支援チームがファシリテーターとなり、翌年入学を控える保護者同士の交流の機会を設けるほか、学校での過ごし方や学童保育室の説明を行っている。
- (高橋委員) 各学校では入学説明会を開催している。その日程よりも前に公民館講座として実施されることは意義がある。
- (鈴木(健)会長) 学校のファンを増やす効果もあるのではないかと思う。中学校でも同じようなことができるのではないかとも思う。それでは、社会教育委員会議では、どのようなことが話題となっているか。
- (小島委員) 公民館や図書館に関することが話題となっている。生涯学習に関わる人材の問題を指摘したい。ICT活用に関して、市民がITパスポート資格受験をする際の補助金を出すべきである。
- (鈴木(健)会長) ぜひ社会教育委員会議において提言としてまとめるなど、方向性を見いだしていただきたい。
- (高橋委員) 学校教育では、こども未来プロジェクトという、小中学生が自分たちで主体的に学校生活や地域を良くしていこうとする取り組みがある。具体的には、いじめ防止やスマホの使い方について、呼びかけを行っている。国分寺中学校区では生徒会が地域とのつながりづくりを行っている。地域と学校の連携深化という意味で、位置づけできるものであるので紹介する。
- <高橋委員、別公務のため退席>
- (鈴木(健)会長) 男女共同参画に関し、市役所に啓発看板が設置してあるが、楡木副会長よりお願いしたい。
- (楡木副会長) 男女共同参画推進委員会では、本協議会と同じように来年度プラン策定作業を行うこととなっている。また、男女共同参画の取組は、選択的夫婦別姓の議論もされているが、中々進んでいないと感じる。男女共同参画は、人権問題にも関わっていると考えるので、関連する講座がもっと増えてもよいと思う。
- (鈴木(健)会長) 公民館、図書館などの社会教育施設、社会教育委員会議は、公費で運営されており、社会課題の解決も非常に大きなテーマである。男女共同参画について、公民館や図書館、社会教育運動を通し、どのような形で実現していくかは重要な課題である。少子高齢化やデジタルデバイド・ICT活用もある。例えば、電子図書館導入にあたっての利用方法等ノウハウの普及など、重要となってくる。市の目標を達成するためにも有効である。それでは、時間も限りがあるので、議事(1)実施計画については、これでもよろしいか。
- <委員一同、異議なし>
- (2) 下野市生涯学習推進計画(第四次)策定方針について
- (鈴木(健)会長) 先ほど坂村市長より諮問書をいただいた。これに関連して事務局より説明を求める。
- (事務局) 資料に基づき説明。
- (鈴木(健)会長) 事務局より説明があった。生涯学習推進計画は総合計画や教育大綱、教育振興計画と連動していると思うが、調整はどのように行うか。

(事務局) 他の計画策定とともに作業は同時進行で進んでいくものと考えている。生涯学習分野について、本協議会での意見等を踏まえ、ボトムアップで議論を積み上げ、上位計画に反映させていきたい。

(小島委員) 前はしっかりした生涯学習推進計画となった。

(鈴木(健)会長) 事務局へのお願いであるが、市民意識調査に関して、無作為抽出による18歳以上個人、自主サークル等団体へのアンケート調査のほかに、全てを対象としなくともよいので、ハッとする意見が出ることを期待して、公民館講座等の利用者やヘビーユーザーにも意見をとっていただきたい。また、今回の会議において、第三次計画の総括をしていく必要があるので、事務局は準備をお願いしたい。それから、ウェルビーイングという言葉について、難しい言葉であるので、事務局より紹介をお願いしたい。

(事務局) 資料、動画を使って説明。

(鈴木(健)会長) 個人の満足だけではなく、一緒に参加した人の共感的な満足が地域づくりにつながっていく。公的な組織で行うとすれば、ウェルビーイングという考え方が指針となっていくのではないかと感じている。一人ひとりの満足が他の人たちの満足につながっていくという意味では、先日開催された天平の桜歌会についても言えるのではないか。

(松本委員) 私も演奏者として参加した。自分から出向いて、他の団体や来場者と楽しい時間を共有することができたと感じた。

(鈴木(健)会長) 他の団体と一緒にやっていく、交流していくことは非常に重要なことである。また、図書館については、静かにじっとしなければならない場所から、議論する場所へ変わってきている。ただ、ハード面の整備が追いついていない。それから、公民館については、貸館がメインで、講座に関しては講義形式が多い傾向にあり、交流の機会が中々ないが、これからはウェルビーイングの考え方になっていくと感じる。ところで、鈴木委員からウェルビーイングに関する事前意見があった。事務局の説明や議論で了承いただけるか。

<鈴木(秀)委員了承>

(鈴木(健)会長) ありがとうございます。それでは、時間となりました。進行を事務局へ戻す。

## 6. その他

(野口課長) 委員の皆様ありがとうございます。事務局から説明願う。

(事務局) 令和6年度生涯学習文化課主要事業報告を配付したので、参考にしていきたい。また、次回会議の開催は6月中旬を予定している。日程確定次第、通知で案内する。

## 7. 閉会